



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 — 地に足

春がきたね。新しい年度のはじまり。新入生、新卒生のみなさん、そしてこの春から環境が変わるのよ!という、その他のみなさん、心の準備はできとりますか?

いつだって新しいことへの一步は期待と不安が入り混じる。昔は『期待』しかなかったのになー、臆病になったなーとボヤいとったら、『不安』は地に足が着いている証拠や、と言われ納得した。

そして、起きてもないことを心配するのは『ネガティブティビティ・バイアス』っていう人間にしかない思考があるということも最近知った。危険・失敗・不安などのネガティブ情報を優先して処理するように発達した、生き延びるために備わった脳の仕組みらしい。人が思い描く不安の多くは実際には起こらない、起こったとしても想像より軽いともいうし、失敗や目に映ってないことを恐れ過ぎず、春の陽気に乗っかって、軽やかに踏み出していこう。

ただ、対岸の火事が、気づいたら隣まできとったよ、ってこともある。やから、これだけは言うとか。

『NO WAR』。戦争反対。

(テノヒラkiku)



御荘文化センター図書室より

“4月の新着図書ピックアップ”の紹介

【ファンタジー】

『神の蝶、舞う果て』
上橋 菜穂子 (著)
講談社 (発行)

降魔士の少年・ジェードと少女・ルクランは、聖域<闇の大井戸>で、魔物から聖なる蝶を守る役目を負って暮らしていた。ある日ルクランは、聖なる蝶が舞い上がって来る予兆の鬼火に触れてしまう。なぜ自分が鬼火に反応するのかを知りたいルクラン。ルクランを守りたいジェード。鬼火に激しく反応するルクランは、聖域を守る者のなかで波紋を呼んでいく。



【ノンフィクション】

『ラストインタビュー 藤島ジュリー景子との47時間』
早見 和真 (著)
新潮社 (発行)

旧ジャニーズ事務所の性加害問題で批判を浴びた、藤島ジュリー景子とはどんな人物なのか? 叔父・ジャニーとの関係、母・メリーとの確執、二人三脚で歩んできた「嵐」に対する思い、何よりも一連の出来事を彼女はどのように捉えているのか。容赦なく切り込む著者の質問に真摯に答えるジュリー。40時間を超えるインタビューで、はじめて胸の内を明かした。



御荘文化センター図書室では、毎月「図書室だより」を発行しています。

ピックアップ図書以外の新着図書情報やそのほか新しい情報を皆さまに発信しています。町のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



愛南町
ホーム
ページ